

平成30年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

みんな コイコイ 貝泊！～みんなで“創る”新しいむらづくりのかたち～

受賞団体：貝泊コイコイ倶楽部（福島県いわき市）

◆むらづくりの背景・経緯

いわき市は、福島県の最南端に位置し、温暖な海洋性気候で、日照量が豊富で降雪も少なく、県内でも温暖な地域である。貝泊地区は、市の南西に位置し、阿武隈山系の豊かな自然に恵まれた山間地域で、市内でも特に過疎化が進んでいる地域である。

貝泊地区は、昭和30年代に林業と農業で大いに栄えたが、それ以降、林業の衰退とともに過疎化が進み、地元の貝泊小中学校では、平成14年に児童生徒数が14名まで減り、存続が危ぶまれていた。子供たちが集う学校を守ろうと、住民有志が中心となり、平成14年に貝泊コイコイ倶楽部が設立された。平成15年に一度休校となったが、県外から子供を含む5人家族を受け入れたことによって、平成16年に学校が再開し、“わずか1年で休校が再開した成功事例”として新聞・テレビ等で大きく取り上げられたことが契機となり、全国各地からIターン移住者の受入が進み、ピーク時には貝泊地区で23世帯55名の移住者を受け入れ、隣接地域を含めれば、60世帯100名の移住者を受け入れている。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

倶楽部では、移住者などの会員に対し遊休農地の紹介や貸借を行ない、耕作者の確保と耕作放棄地の解消に努めているほか、遊休農地を活用し、大根、白菜や大豆を生産している。また、これら地元産の野菜をキムチや豆腐などに加工する6次産業にも取り組んでおり、地元産の野菜や炭とともに直売所にて販売し、農業収入の確保に努めている。



直売所の様子

○生活・環境整備面

Iターン希望者へ借家や仕事を斡旋する取り組みにより、東日本大震災後においても、新たに5世帯22名の移住者を受け入れたほか、倶楽部が主催する各種イベントを通じて、学生や都市住民との交流を図り、地域の活性化に努めている。また、地区内の公園では、倶楽部が募った地域外の植樹オーナー500名により、桜1,700本、栗1,000本が植樹されているほか、農業や炭焼きの体験施設やコテージなどの宿泊施設も整備されており、里山体験や地域観光の場として、都市住民との交流に活用している。



イベントを通じた都市住民との交流

行政と連携し、県道沿いの植栽などの地域の環境美化活動に取り組んでいるほか、毎月行われる倶楽部の定例会を通じて、地域コミュニティの維持・強化を図っている。